



## 小浜西組地区重伝建事業の住民説明会 (市と当協議会が共催)

平成25年2月16日（金）飛鳥・香取区を皮切りに、19日（火）白鳥区、23日（土）貴船区、24日（日）男山・鹿島区、26日（火）浅間区、28日（木）大原区を最終とし、今年度の説明会が行なわれました。市からは次のような説明がありました。

### 1. 伝建制度について

- ①西組地区では工事实施の許可が必要となります。同意していない建物でも必ず市役所に届出して下さい。
- ②西組地区では最低でも次の3つのルールをまもりましょう。
  - (1) 3階を設けるには道路から見えない所にしましょう。
  - (2) 木造で瓦を使った建築物にしましょう。
  - (3) 更地にせず道路側には塀や垣などを設置しましょう。
- ③工事への補助金利用については2とありがとうございます。
  - (1) 重伝建補助事業で、国・県・市からの補助金を受けることができる工事。建物と工事内容に補助率に違いがあります。
  - (2) 景観形成助成事業で市単独の補助金が受けられる工事。工事内容で補助限度額に違いがあります。  
25年度と26年度に限り、補助率を50%にします。



飛鳥・香取区



貴船区

### 2. 小浜小学校跡地について

平成18年度～平成24年度に若狭武田氏館跡（小浜小学校跡地）発掘調査の実施、25年度は現地調査と出土品の整理を行ない、調査報告結果のまとめを行ないます。26年度は若狭武田氏館跡の測量調査を行い、国の追加申請を行ないますとの報告がありました。

### 3. 街路整備について

あくまで予定とし、利用する補助事業は「観光まちなみ魅力アップ事業」で、期間は平成25年～28・29年度（4カ年か5カ年）であること。「観光まちなみ魅力アップ事業」

とは旧旭座の活用整備と小浜西組地区の街路整備について、一緒に取り組む事業であることが説明されました。

小浜西組の整備計画案として、地下水の揚水調査、雨水渠（雨水排水溝）の改修、無電柱化・電線美化化、道路舗装・側溝整備、簡易消火栓整備についても今後、協議しながら進めていきます。

今回の説明会の住民の1番の関心事は、街路整備のことでした。事業の中に白鳥・貴船区が整備からはずれている事を知った区民は落胆の色を隠せませんでした。「昔は貴船区の通りが丹後街道だったと聞いている」という話まで飛び出し、市の方から説明を受けて、貴船区の通りは旧丹後街道であったこともわかりました。また「重伝建になってから何も変わっていない、融雪装置、電線地下埋設の話はもうなくなったかと思っていた」という意見もあり、市の方は小浜西組の街路整備の計画は、今後も続くものであるから悲観的にならないでくださいと言われました。又「旭座と西組の街路整備がセットであると聞いているが、旭座がうまくいかなかった場合、こちらの計画はどうなるのか」という質問も各区からでした。旧旭座の整備計画と小浜西組の整備計画は、別のものであるということを知り、ほっとしました。

他にも各区からいろんな意見がでてきて、課題もあり、反省もして考えさせられた説明会でした。

予定どおり街路整備工事が始まると、人や車の通行も不便になったりします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いします。又、今年11月9日（土）、10日（日）は全国まちづくり団体交流研修会福井大会があり小浜西組では分科会を行うことになっており、30人ほどの人達が西組地区を視察、散策する予定です。当協議会から、工事中のご不便と合わせて、ご理解とご協力をお願いしました。



男山・鹿島区



浅間区



大原区

## 小浜西組町並協議会からの報告とお知らせ

### 町並み保存資料館企画委員会より

- 雛人形展を好評のうちに終えました。御来館くださいました方々にお礼申し上げます。
- 3月22日から引札展を行なっています。（引札は江戸、明治、大正にかけて商店、問屋などの宣伝のために作られた広告用チラシのことです）範囲を小浜西組に限った引札を展示しています。懐かしい商店の名前も出ています。ぜひご覧ください。  
〈4月15日まで 火曜日休館日〉 ※一部「酔月」でも展示致しております。水曜日定休
- 町並み保存資料館の開館時間 平成25年4月1日から午前9時～午後5時となります。
- 4月から町並み保存資料館の管理を当番制で行なっていきます。  
曜日ごとに管理人が変わっていますのでご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# A E D 講習会の感想及び意見

平成25年2月16日（土）に町並み保存資料館に於いて、開催した講習会に26名の参加があり、受講しての感想をおききしたところ、地域住民とのつながり、胸骨圧迫が大切と感じた方が多くいました。講習会参加者の方からの感想は下記のとおりです。

●2回目の受講でしたが、A E Dの機器はあくまで手助けの1つで、心肺蘇生のためには胸骨圧迫をとにかく行なうことが重要だということがわかりました。すぐ救急車を呼び、交代でマッサージをするのがよいそうです。救急車が到着するまでの7分間（旧小浜地域）は何とか頑張らなくてはなりません。A E Dの機器は電源をいれるとアナウンスでパッドを貼る指示もしてくれ、心肺も計測してくれます。そこで電気ショックが必要かどうか判断してくれます。慌てず指示通りにおこなえば大丈夫です。町並み保存資料館のA E Dは蓋を開ければ自動で電源が入る優れたものです。どこにあるかを知っておくのも大事だと思いました。また、多くの方に講習を受けてもらえるといいなと思いました。

●大変よい講習会でした。海の近くに住む我々が習っておく必要があると思いました。

●講師が女性の救急隊員の方だったせいか、皆さん気楽な雰囲気でした。A E Dの機器を使う前に胸骨圧迫の仕方を教えていただきました。心肺蘇生をいかに早く施すかで命が助かる…その方法は・多くの人に声をかける・119番を頼む・A E Dがあればお願いします・1分に100回のテンポで胸骨圧迫を入れ替わりながら施す。納得はしましたがとっさにできるかどうかは疑問です。しかし知っておくことは無駄ではありません。いい勉強になりました。

●以前にA E Dの講習を消防署のほうで受講したのですが、心肺蘇生の方法がずいぶん変更になっていました。一度受講したからできるようになるわけでもないのに、これからも機会があれば受講していきたいと思います。

●救急隊員によるA E Dの使い方の説明を受け、思ったより簡単に使用できそうですが、万能ではなく、蘇生には人の手によって胸骨圧迫を根気よく行なうことが大事と聞き、直面した場合はとにかく早く救急車を呼ぶことが一番とつくづく感じました。

●講習会に参加させてもらって、救命処置の方法も以前とは異なっているので勉強になりました。救急車が来るまでは胸骨圧迫を行なうこと。この胸骨圧迫がたいへんなのにびっくりしました。それからA E Dを装着するそうで、最初から使うのかと思っていたので意外でした。A E Dをつ



けると手順がアナウンスされ指示通りにすればよいそうです。このような講習会は時々受けないといざという時に実行できないのではないかと思います。

- 講習会に参加してAEDを身近に感じることができ、良かったです。時が流れる中で、人も町並みも大切にせなあかんと改めて感じました。
- 消防署の方の説明や、人形を使った心臓マッサージ等色々勉強になりました。ただ、心臓マッサージやAED使用等は病人を見て、それを判断するのは難しいのでは・・・と思います。医師がいてはじめて、それを判断しそのもとで心臓マッサージやAEDを使うのならわかりますが…。最近わからないことも多く、このように講習会を開いて勉強する機会を与えて下さったことを感謝しています。
- AED（自動体外式除細動器）の設置が多くなってきています。実際に使用しなければならぬ事に直面した時、使い方を知っているのと全く知らないのとでは大きな違いがあると思います。知っていても、なかなか勇気を持って、使用することは難しいものです。胸骨圧迫の大切さも教えていただきました（こちらの方が大切!!）私自身、今まで知っている事の再確認と復習の意味で受講しましたが、とてもプラスになり、大切な講習会でした。お話を聞きするだけでも、繰り返し行なっていくことが大切だと思います。
- AEDについての説明や作動の仕方などを教えてもらって勉強になりました。これからは緊急時において、勇気をもってAEDを使えるようにならなければと痛感しました。
- 気づくこと、119番、人を呼ぶ、大切なことを改めて知りました。
- 先日の講習会を通して区民の安全に対する横のつながりと助け合う事の大切さを教えていただきました。又、AEDの必要性と心臓マッサージの方法の正しい行ない方が理解できた事が大変良かったです。
- 以前にもAED講習会に参加をしましたが、今回とは少し異なり、年月により、講習内容が変化する事を知りました。又、次回も講習会があったらぜひ参加したいと思いました。
- 今までなら倒れている人を見つけても、通報くらいしかできなかったと思いますが、救命処置のしかたを教えてもらい、微力ですが救急車が来るまで手助けができるのではないかなと思いました。その時は1・2・3・・・と数を大きな声で言いながら行ないたいと思いました。
- 人工呼吸をすることが一番大切だと教えてもらいました。休みなくつづけるには大勢の人達がかかわる共々に力を合わせる事が大切なのではないでしょうか。和をもって日頃から親しくしていきたいと思います。
- 消火器をあつかうよりむずかしいです。なんでもすぐに利用できないと思います。指導員的な人を選び、その人達が常に講習を受けて、現場での指導をし、小地域に分けて指導員を配置してほしいです。

